

令和6年度 学校評価 報告

I 学校目標

自らライフキャリアをデザインし、地域社会に主体的に関わり貢献できる人の育成

II 生徒育成方針

- 1 自他の大切さを認め チームで活動できる
- 2 地域の良さを知り 情報発信できる
- 3 社会の一員として 自覚を持って行動できる
- 4 時代の変化に応じて キャリアデザインできる

III 重点目標

- 1 学ぶ楽しさを実感し、学びを深め広げながら主体的に進路選択でき進路実現できる生徒を育む。
- 2 他者を理解し自他の大切さを認め支え合いながら人権感覚を育み、いじめや暴力を許さない学校づくりを推進する。
- 3 保護者や地域に校内の教育活動を適時情報発信し連携を深めながら、地域に開かれた学校づくりを推進する。

IV 評価について

以下の観点にもとづき、評価する。定期的に生徒・保護者の振り返り（アンケート調査）を実施。それらの評価により教育活動について検証しました。

重点目標	評価項目	評価の観点
1	学習指導	生徒が、学ぶことについて、その楽しさをさらに感じられるようになったか
		生徒一人ひとりが、わからないこと、うまくできないことがあったとき、自ら新たな技能や知識を身につけようとする姿勢をもてるようになったか
	進路指導	生徒が、その希望する進路実現に必要な学力を身につけたか
		生徒一人ひとりが、自分の将来を想像し、その実現に向けて必要な行動を定め実行できるようになったか
2	自己理解と他者理解	生徒一人ひとり自己理解が深まり、自分の考え方や行動の判断基準（価値観）をもてるようになったか
		生徒が、自分と他人の価値観の違いを理解し、ともに成長できる関係を築けるようになったか
	協働した学びと発信	生徒が、他者と協力して学び合ったり、作業したり、課題解決にむけて協働して活動できるようになったか
		生徒が、自分の考えやグループでまとめたこと等を聞く相手に伝えられるようになったか
3	開かれた学校	生徒、保護者にとって、学校は安心して学び活動できる場所であったか
		生徒、地域や保護者の学校への期待（需要）を共有し、教育活動を展開することができたか

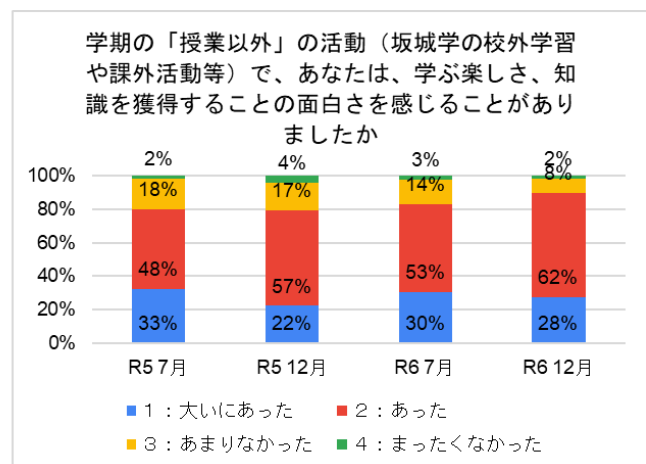
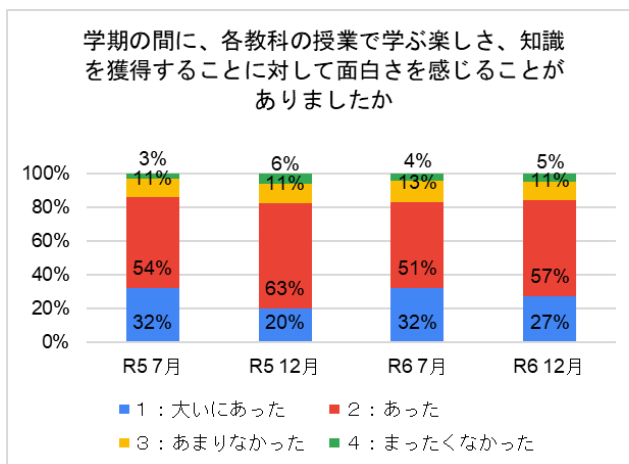
各アンケート調査の回答数は以下のとおり。

生徒の教育活動アンケート	…	R5.7月：126人	R5.12月：148人
		R6.7月：148人	R6.12月：119人
坂城高校版ループリック	…	R6.4月：42人	R7.2月：100人
保護者の教育活動アンケート	…	R5.7月：96人	R5.12月：101人
		R6.7月：101人	R6.12月：76人

V 評価

<学習指導①> 生徒が、学ぶことについて、その楽しさをさらに感じられるようになったか

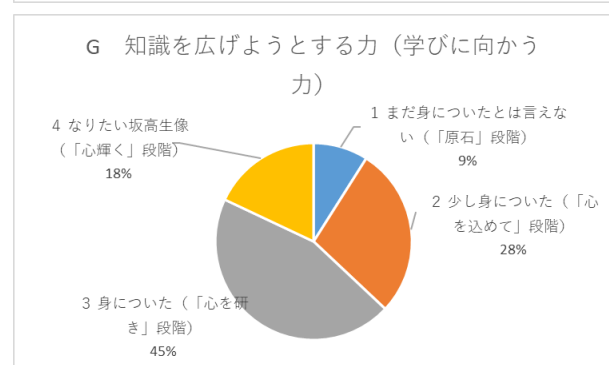
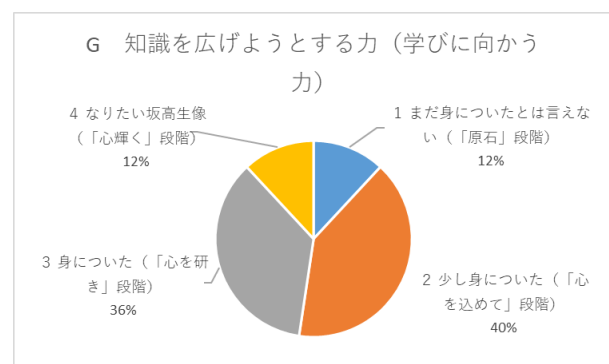
左のグラフは、教科の授業について、右のグラフは坂城学や課外活動について、学ぶ楽しさを問う質問です。この結果から、「1大いにあった」「2あった」を合計した数はどちらも昨年度からおおむね8割を超えており、多くの生徒が面白さを感じていることが分かりました。12月（2学期）の方が7月（1学期）よりも「大いにあった」がやや低くなりましたが、これは授業で扱う内容が難しくなっていたからだと考えられます。それでも昨年度よりも2学期の下がり幅が減っていることから、授業担当者の工夫が実っているものと思われる。



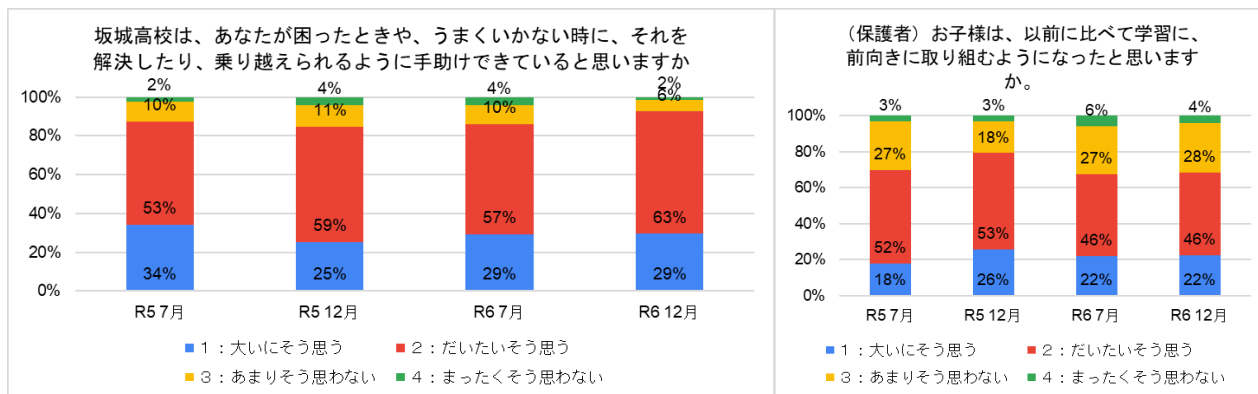
<学習指導②> 生徒一人ひとりが、わからないこと、うまくできないことがあったとき、自ら新たな技能や知識を身につけようとする姿勢をもてるようになったか

4月実施のループリックより、「2少し身についた（知らない言葉や事柄が出てきたら、意味を尋ねたり調べたりしようとしている。坂城町や自分の地元について知ろうとしている）」「3身についた（知らない言葉や事柄が出てきたら、意味を調べ、理解することができる。坂城町や自分の地元について調べ、知識を得ている）」と答えた生徒が大多数です（グラフ上）。

また2月に行った同様の質問では、「4なりたい坂校生像（知らない言葉や事柄に対し、調べて理解した知識を他者にわかるように説明できる。坂城町や自分の地元について調べて理解したことを他者に説明できる。）」「3身についた」としている生徒が4月に比べて増えており、調べる力や説明する力をつけたいという意欲がうかがえ、成長している実感ももっているそうです（グラフ下）。



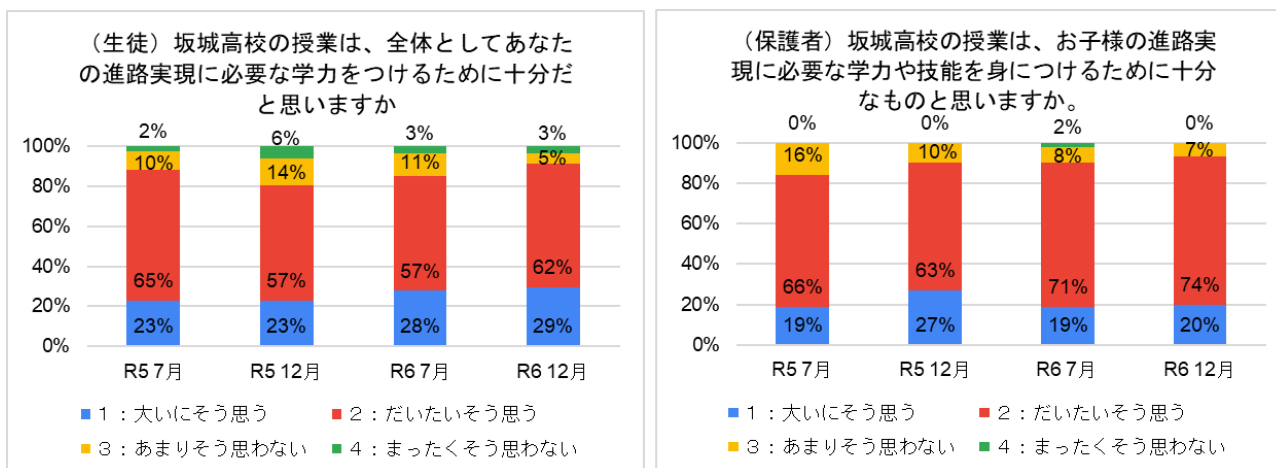
「お子様は、以前に比べて学習に前向きに取り組むようになったと思いますか」という質問に対する保護者の回答は、7月も12月も7割近い保護者がポジティブな回答をしています（グラフ右）。



<進路指導①> 生徒が、その希望する進路実現に必要な学力を身につけたか

生徒へのアンケートから、こちらも7月、12月ともに「1大いにあった」「2あった」を合計した数は8割を超えており、多くの生徒が「学力をつけるために十分だ」と考えていることが分かりました（グラフ左）。

また保護者へのアンケートからも、9割以上の保護者から十分だという好意的な回答をいただくとともに、1学期よりも2学期の方が若干高まっています（グラフ右）

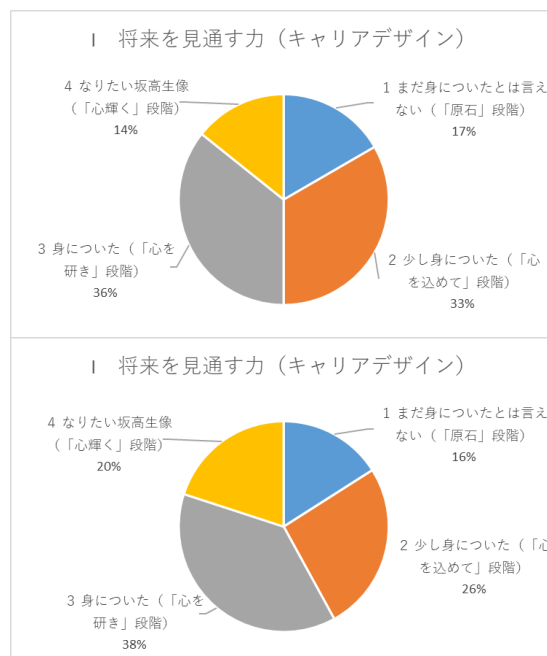


<進路指導②> 生徒一人ひとりが、自分の将来を想像し、その実現に向けて必要な行動を定め実行できるようになったか

坂高版ルーブリック（4月）の結果から、「2少し身についた（自分の将来について、想像している。夢や目標がある）」33%、「3身についた（自分の将来を想像し、それに向けて自分の行動を選択しようとする）」36%、「4なりたい坂校生像（自分の将来を想像し、それに向けて必要な行動を定め、実行できる）」14%であった（グラフ上）。約8割の生徒は夢や目標があるとし、半数の生徒がそれに向けて必要な行動を考えていることが分かります。

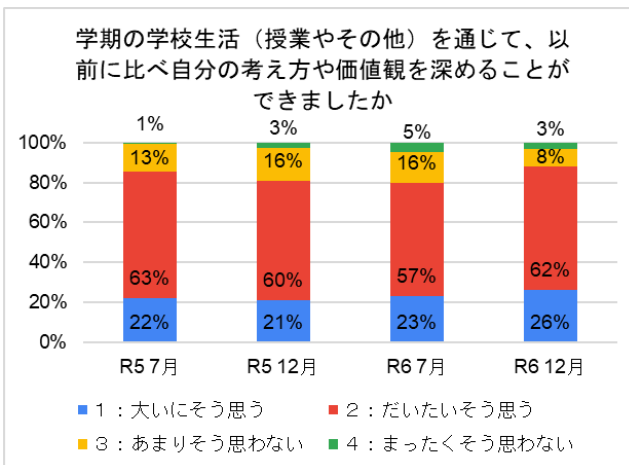
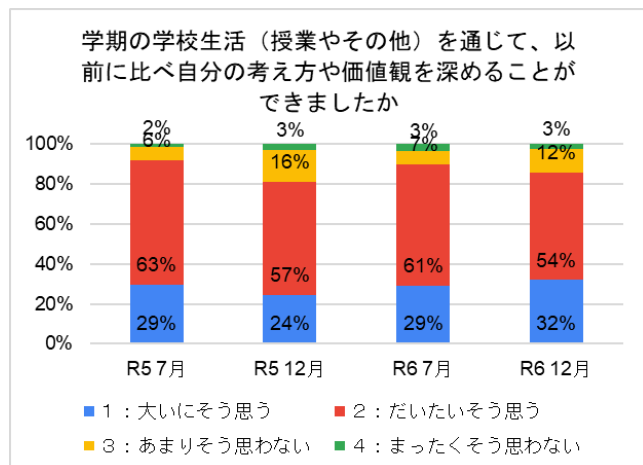
また2月に行った同様の質問では、4（自分の将来を想像し、それに向けて必要な行動を定め、実行できる）としている生徒が増え、さらに自覚的に行動を考えていることが分かります（グラフ下）。

来年度も坂城学を中心により一層生徒の学びの自主性を高めていきたいと思います。

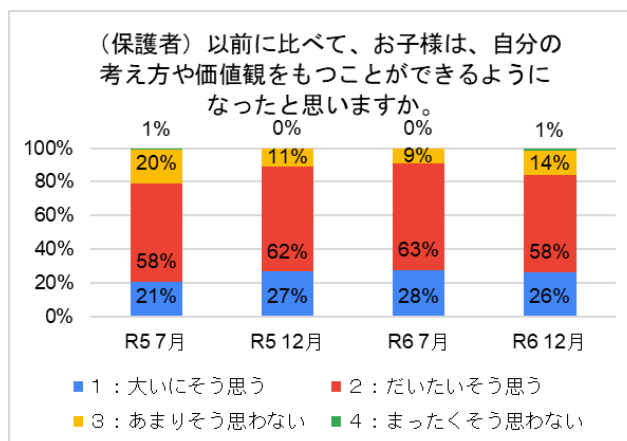


＜自己理解と他者理解①＞ 生徒一人ひとり自己理解が深まり、自分の考え方や行動の判断基準（価値観）をもてるようになったか

生徒へのアンケートから、自分の考え方や価値観を深めることができたかを問う質問に対し、今年度はポジティブな回答が8割を超えています（グラフ左）。また「学期の学校生活を通じて、以前に比べ自分の考え方や価値観を深めることができましたか」という質問に対しても、今年度は1学期よりも2学期の方がポジティブな回答が高くなり、生徒自身も成長を感じているようです（グラフ右）。

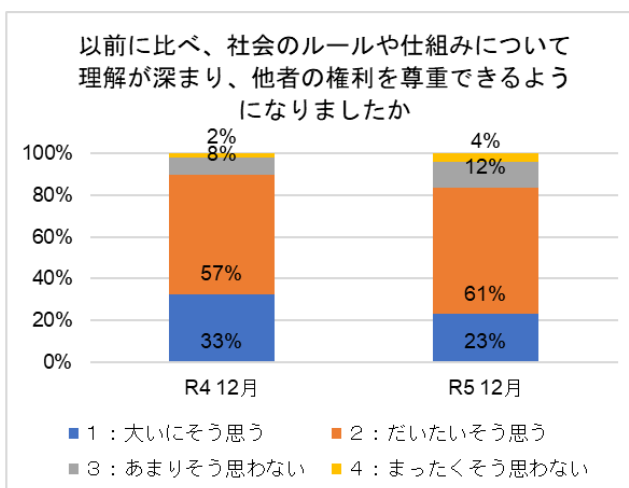
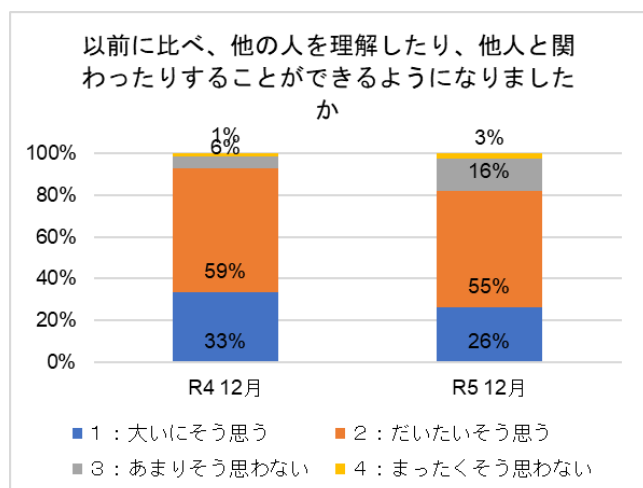


一方で保護者へのアンケートからは、自分の考え方や価値観をもつことができるようになったかについての質問に対して、今年度7月に91%だったものが85%に減少しています。



＜自己理解と他者理解②＞ 生徒が、自分と他人の価値観の違いを理解し、ともに成長できる関係を築けるようになったか

他者理解を問う生徒へのアンケート結果では、R5ではR4よりも低い結果となりました（グラフ左）。また社会のルールや仕組みについての質問に対しても、R4よりも低い結果となっています（グラフ右）。

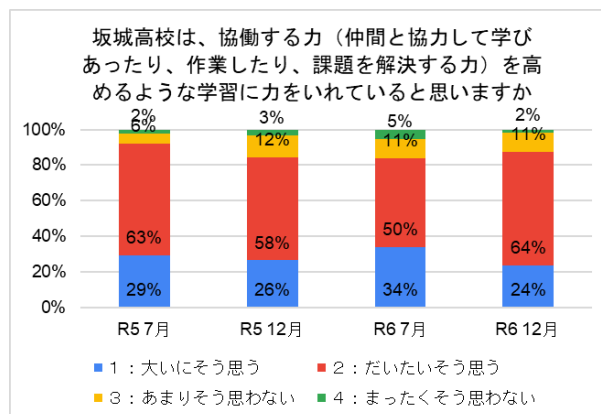
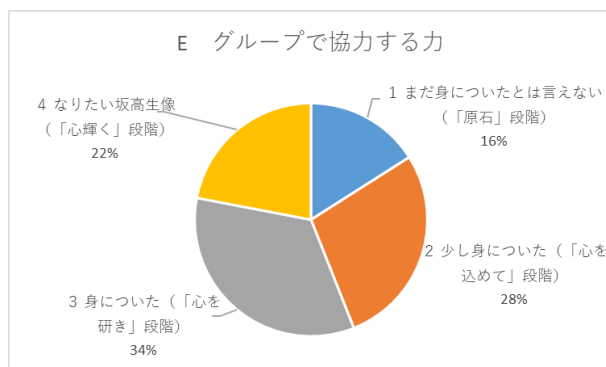
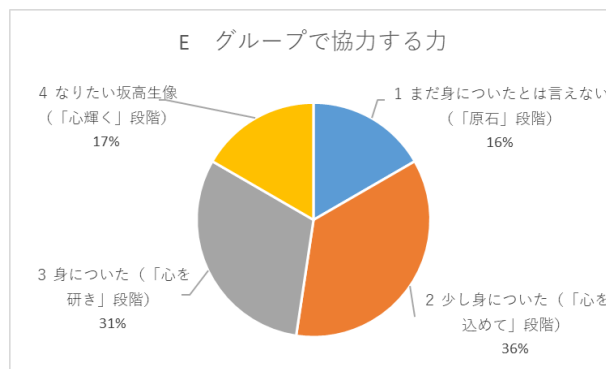


＜協働した学びと発信①＞ 生徒が、他者と協力して学び合ったり、作業したり、課題解決にむけて協働して活動できるようになったか

坂高版ルーブリック（４月）より、「２少し身について（授業内グループ活動に参加し、協力して学習できる。委員会活動や清掃活動・クラブ活動などで自分の役割は果たしている。）」「３身について（授業内のグループ活動において積極的に自分の意見を伝え、学習を進めようとしている。委員会活動や清掃活動、クラブ活動において自ら進んで活動できている。）」と答えた生徒が大多数です（グラフ上）。

また２月に行った同様の質問では「４なりたい坂校生像（授業内のグループ活動において、中心となって全体をまとめようとしていたりしている。委員会活動や清掃活動、クラブ活動において、リーダーシップを発揮している）」としている生徒が４月に比べて増えており、２→３、３→４と成長を実感している生徒が増えていることがうかがえます（グラフ中）。

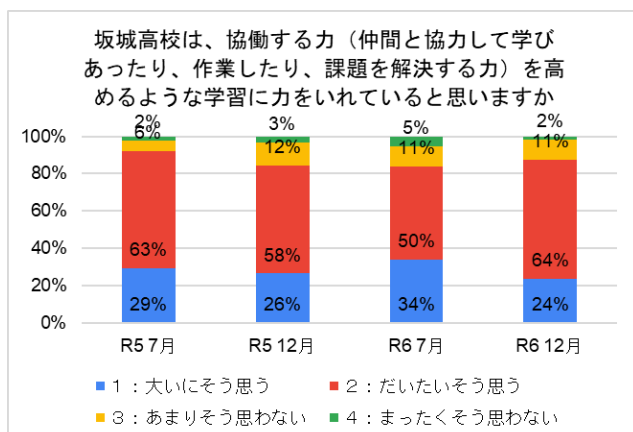
その一方、学校の取り組みについての質問では、昨年度に比べて減少傾向にあります。人間関係が学習活動にも影響をしていると推測されます。（グラフ下）



＜協働した学びと発信②＞ 生徒が、自分の考えやグループでまとめたこと等を聞く相手に伝えられるようになったか

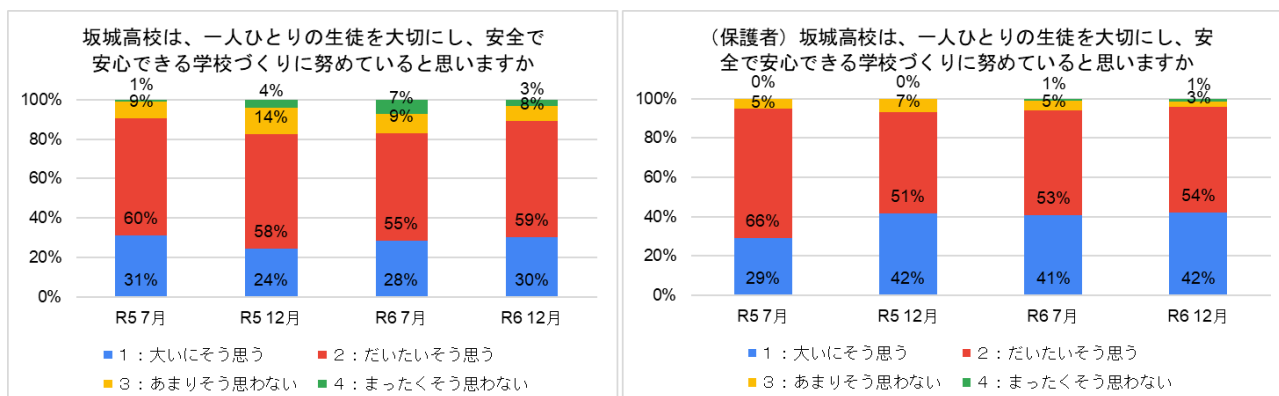
生徒へのアンケート結果より、坂城高校が力を入れているかという問いに対しては、そう思うと答えた生徒は１２月で９１％と高く、７月から上がっています（グラフ）。

これは中学校でも一人一台パソコンが当たり前の世代になってきており、坂城高校での取り組みが中学校と差がなくなっていることが要因として考えられます。坂城高校でもパソコンを使っの発表などを各教科で行うなど、年間を通して学習活動に取り入れています。



＜開かれた学校①＞ 生徒、保護者にとって、学校は安心して学び活動できる場所であったか

生徒へのアンケート結果より、1学期（7月）で83%、2学期（12月）で89%の生徒が「大いにそう思う」「だいたいそう思う」と答えており、学校の取り組みを好意的に評価していることが分かります（グラフ左）。また保護者へのアンケートからも、好意的な答えが90%を超えています。学校の取り組みに対し、一定の評価を得ています。

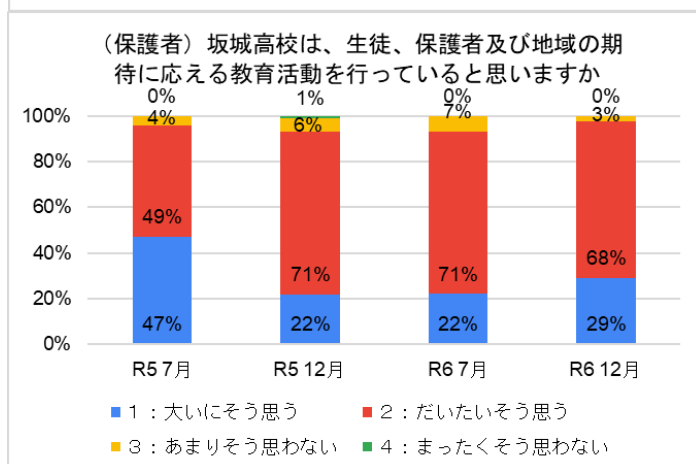
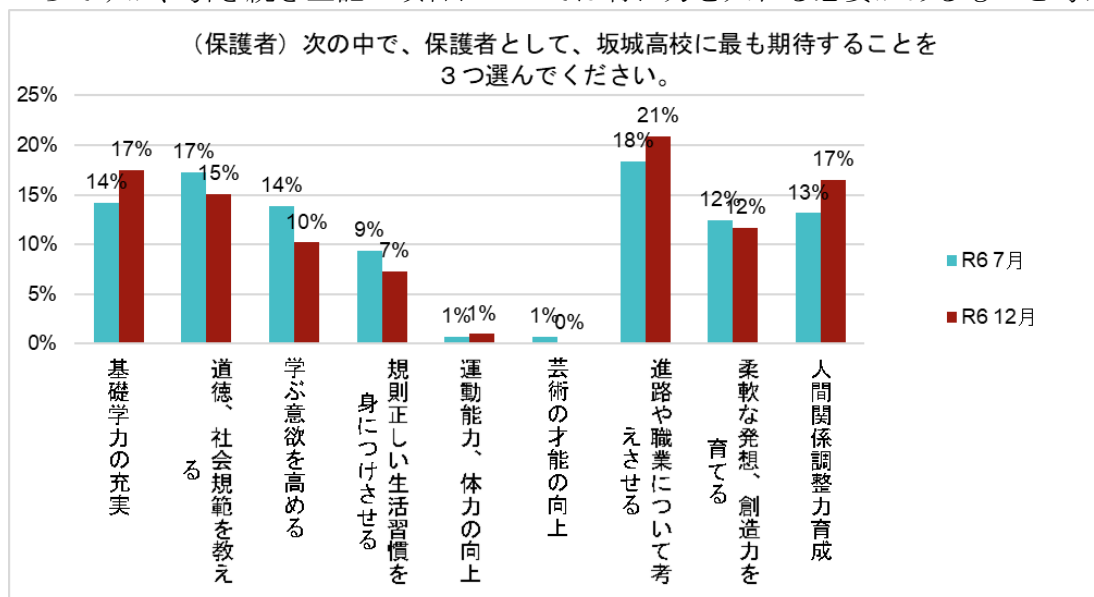


＜開かれた学校②＞ 生徒、地域や保護者の学校への期待（需要）を共有し、教育活動を展開することができたか

保護者へのアンケートからは、ここ数年

- ① 進路や職業について考えさせる
- ② 基礎学力の充実
- ③ 人間関係調整力育成 ・ 道徳、社会規範を教える

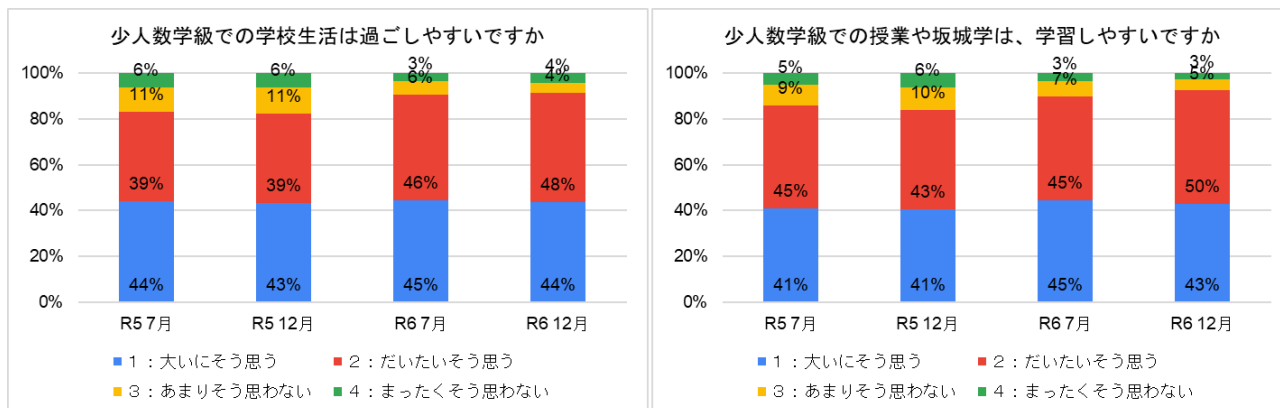
の順で高校に期待をされています（グラフ下）。その下のグラフの通り、毎回90%以上の方が「坂城高校の教育活動は生徒・保護者・地域の期待に込んでいる」と回答していただいているところですが、引き続き上記の項目については特に力を入れる必要があるものと考えます。



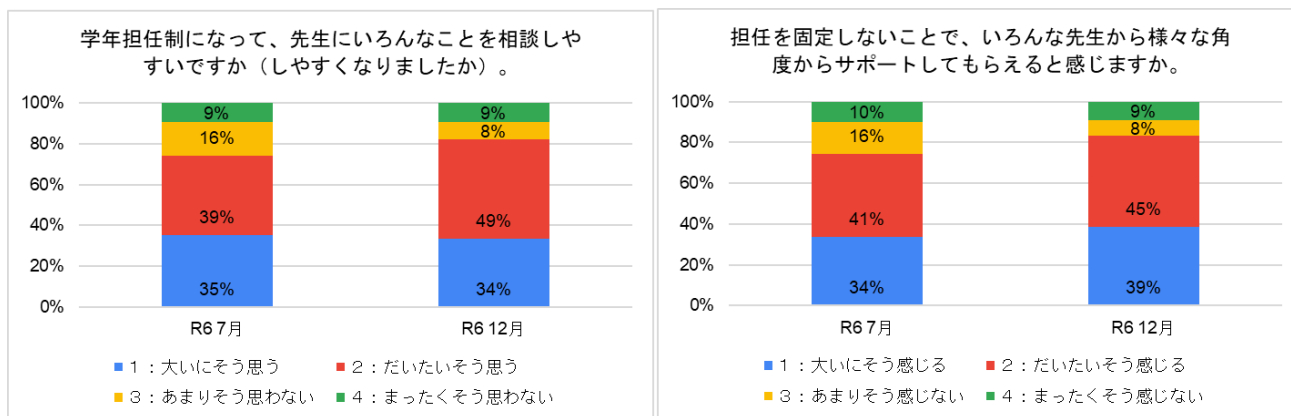
＜少人数学級×学年担任制＞

坂城高校は、これまでの未来の学校「少人数学級を研究する高校」としての取り組みとともに、今年度より坂城版学年担任制を取り入れて実施してきました。各学年2クラス80人募集を3クラス展開とし、そこに4人の担任をつけて今年1年間実施してきました、

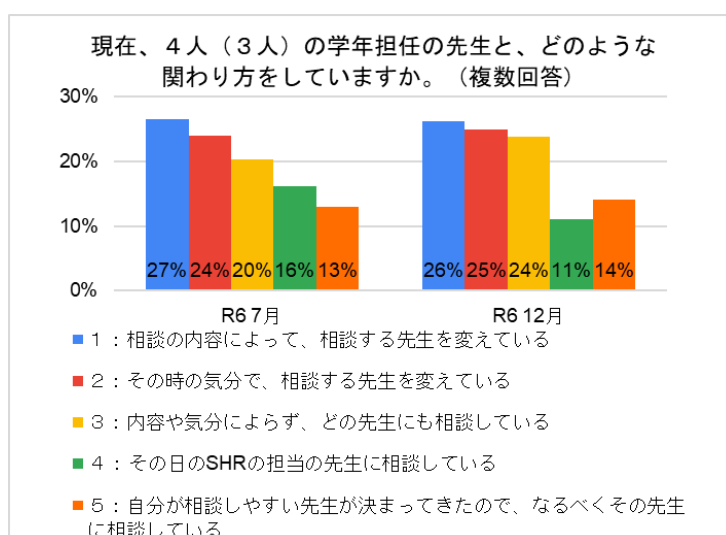
生徒へのアンケートでは、「過ごしやすいか」「学習しやすいか」の2点で問いました。その結果、1学期2学期どちらも「そう思う」と答えた生徒が8割を超えており、昨年に引き続き多くの生徒にとって少人数学級がよい結果を生むものであると考えられました。また昨年度よりも今年度の方がわずかに高い値となったことから、少人数であると同時に学年担任制の効果があるのではないかと推察されます。



学年担任制になって、先生に相談しやすいか、サポートしてもらえていると感じるかを聞いたところ、こちらも高い水準で「そう感じる」と答えた生徒が多かったです（グラフ下ふたつ）。さらに、7月に比べて12月で「そう感じる」と回答した生徒の割合が増えたことから、2学期になってクラスに慣れてきたことや様々な経験を通じて担任の先生が身近に感じられていることがうかがえます。

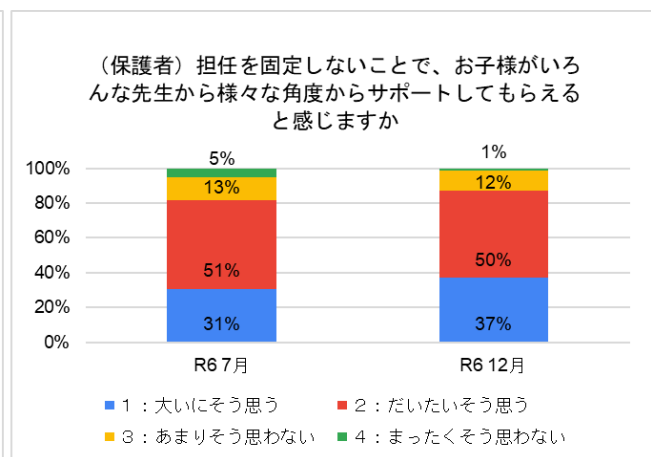
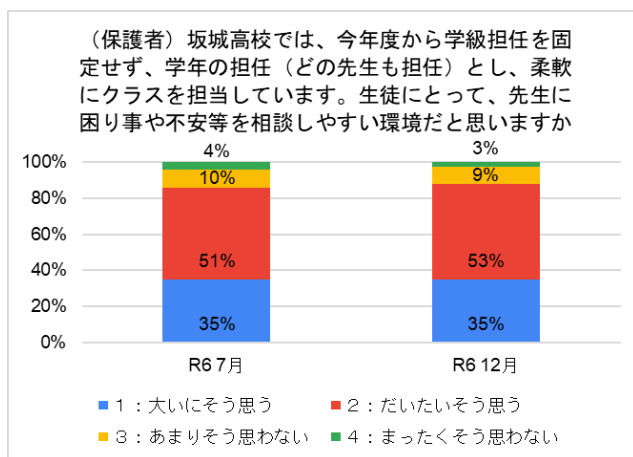
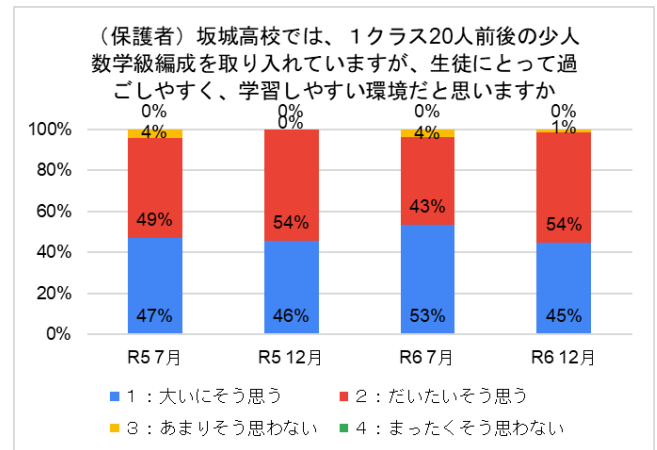


学年担任の先生とどのような関わり方をしているか、つまり誰に相談をしているかを問う質問では、相談する先生を固定していないとする1, 2, 3, 4の回答を選ぶ生徒が多くいました（グラフ右）。生徒は固定の担任でないシステムに順応している様子がうかがえます。12月のアンケートでも1, 2, 3の回答が多いことから、固定の担任でなくても生徒は適応し、自分で相談する先生を見つけることができることが分かりました。



また保護者に対しても、少人数学級が生徒にとって過ごしやすく学習しやすい環境か尋ねたところ、95%を超える保護者から「そう思う」との回答を得られました（右グラフ）。保護者からすると、少人数学級による効果を期待して坂城高校を受験させ、それに見合った効果を実感しているものと思われます。

また学年担任制が生徒にとっていい環境か、サポートしてもらえていると感じているかという質問も、80%以上の保護者が「そう思う」という回答をしています（グラフ下ふたつ）。そしてその数値も7月に比べて12月がわずかながら高いことから、時期を経てその効果を実感した保護者がいたことを示しているものと思われます。



以上のことより、坂城高校の「少人数学級×学年担任制」は生徒・保護者に一定の評価を受けていることが分かりました。高校としても今年初めてのチャレンジであり、高い評価をいただけていることは感謝です。ただ一方で「どの先生に相談していいか分からない」ということや、クラス替えについて「申し送りだけではなく一年間でも関わって性格、特性を知り得た先生に三年生はみてご指導いただきたかった」「クラス替えなしで3年間行って欲しいと思った。」などのご意見も保護者の方からいただきました。さまざまな意見とも向き合いながら、でも目の前の生徒に向き合い、よりよい学校をめざしていきたいと考えています。